十字峡

ネズの大木から岩の間を過ぎると、沢寄りに大木が立ち並んでいる。左へ廻り込んだと思うと、先頭の方から「十字峡へ着いたぞー」の大声が聞こえてくる。直径8M余りの上のテント場をとおり、更に中2段長さ10Mほどのだ円形で白樺などに囲まれたテント場へ着くと十字峡だ。小沢へおりて、激流白波を立てて流れ落ちる剣沢を見物、休憩後20Mの吊橋を渡る。棒小屋沢が曲りくねって本流に激しく流入しているのが見えた。

道標
樽平	18.4K
仙人ダム	4.8K
黒部ダム	11.8K

全くスケールが大きい、前も後も華かな極彩色だ。こんな素晴らしい紅葉と渓流がマッチした渓谷に出合ったことがない。オーバーハングの岩棚道は続く、14:51 村上さん ネズの大木を指さし、「ネズの大木が現れたので、十字峡も眼の前だ」と、話す。谷は50Mと深い。

スリルあるワイヤーハシゴ 白竜峡

大スノーブリッジとワイヤーロープで吊り下げられたブラブラ大梯子、足掛け横段の一段の高さが50センチ以上有り、14Mワイヤーロープは足を掛けるたびに大きく揺れて、力の入ること。全く死力を盡しての奮闘だ。足掛が抜け落ちた箇所はよじ登るので時間のかかる大難所、後はつかえているが2人とぶらさがれないもどかしさ、……「速く登れよ」待っているものもシズクで濡れる。ポトポトポトポト、……でも「急ぐな頑張れの掛声に勇気を振るう。緊張の連続、登り切れば ツルツル滑る丸太の渡し、みんな上手にこなして下りれば白竜峡の道標が建っている。その先3分程の広場で最後部が到着するまで休憩。トップとラストで約30分費す。

赤茶化た岩壁、またしても始った 断崖の岩棚へつり、道巾も狭く60cm余り、対岸は有名な赤ムケの壁が崩壊しながら大きく見える。ジグザグ岩道は続く、注意あるのみ。

道標
樽平	20.9K
仙人ダム	7.3K
黒部ダム	9.3K

道標
樽平	21.8K
仙人ダム	8.2K
黒部ダム	8.4K

黒部別山沢も広い沢だ。すぐ奥には沢一ぱいにスノーブリッジが残り、寒々と見える。昨年はまだ今年よりも残雪が多く、この沢を越すのに、もっと高巻きをして乗越し、ずいぶん危険であった話を聞く。別山沢を渡った対岸の渓流際で昼食をとり、休憩をとる。

電力会社の人がリーダーらしく、ザイルと8ミリを持っている。関西電力人見平合宿所へ着いて間もなく、この男女組パーティが予定の時間を過ぎても到着しないので尋ねられた。休憩の取り過ぎで暗くなり心配させた一幕あり。

道標
樽平	23.4K
仙人ダム	9.8K
黒部ダム	6.8K

B 15:40 — B

15:36 右前方山の上部に、関西電力作郎谷宿舎が白く突き出ているように建っているのが見える。

15:34

オーバーハング 15:33

15:31

15:30 地下街の造花のような楓の色も鮮かに……花びらは蝶の舞うように落下し、なごなく寂しく花の香りも漂ってくる。紅葉のじゅうたんの上を歩いての最高のコースだ。対岸はもえるように美しく染まり、岩をも包み隠して美事な錦絵のようだ。行けども行けども次から次へ現れる超自然美に飽くことを知らない。

15:28

スリルある岩棚 15:23

サイン入りの大木 15:20

吊橋より眺む。夕日に映える剣沢の岩壁は、青とネズ色の竜にも似た輝きを呈して美しい。

14:55〜15:18

(真砂岳・剣岳より流入) 剣沢 吊橋 20M

じゅうじきょう 十字峡 950M

テント 8M×4

ネズの大木 14:51

オーバーハング 14:44

棒小屋沢 (鹿島槍ヶ岳・爺ヶ岳・岩小屋沢岳より流れてくる)

深い淵で「神潭(かみぶち)」と呼ばれる

14:47

岩の表面を、冷たい水が流れ落ちて……みんな一口づつすすって通り過ぎて行く。名付けて「キッス水」

14:42

14:40 ガレ

14:35〜38

黒部川は直角に右へ曲がり、切り立つ岩の隙間に育った草木の色の美しさ、総ての色を織り込んで競い合う秋たけなわの光景、またこの先は谷筋が開け、道も広くなり、土砂混りの歩きやすい道なので、対岸の絢爛(けんらん)たる綾錦模様の紅葉(黄葉)美を眺めながら……ワーワー話し合いながら歩く。

14:32

14:27

「キッス水」

14:18

14:23 この附近でも連続に手摺用ワイヤーロープ取付

14:22

白竜峡

いよいよ黒部峡谷神秘の核心部へ入る。黒部別山の山側直立300メートル有余の断崖、数百メートルの間は黒褐色の大屏風、昔はその岩壁に丸棒を打ち込み、釘やワイヤーロープで丸太を吊るして桟道とし、対岸へは篭で渡り返しながら肝を冷したそうである。

今はその岩壁(水面より20〜30メートル上部)に人間1人通れる太さに えぐった ジグザグ岩道がつけられている。壁側には12mmの亜鉛メッキワイヤーロープが、3メートル間隔に打ち込んだ丸棒の環に通してしばってある。歩きながらの手離しでは、とても景色など見ておれない危険地帯、ワイヤーを掴んでは停止し、両側急に押し迫る神秘的な景色を見つめる。直下の奔流は20メートル下を岩を噛む激流だ。頭上はオーバーハングの連続、背の高い人は頭をぶつ。道巾は60〜100cmと狭い。凹凸のひどい岩道へは、絶えずしずくが垂れ落ち、まるで雨降りに歩くようだ。

真っ白に泡立った流れは白竜の昇天する様だということから、「白竜峡」と名付けられたと、エアリスマップに書かれているが、全くその名にふさわしい光景である。

トップ 13:40 ラスト 14:07 出発 14:13 実際に休憩した広場

谷は開ける

広河原

道標
樽平	20.9K
仙人ダム	7.3K
黒部ダム	9.3K

なくりゅうきょう 白竜峡 14:03 奥村通過 1,000M

13:57 大スノーブリッジ

13:36〜13:46 激流の断崖上で待つ

ツルツル滑る丸太

危 ワイヤーロープ 約15Mはある大梯子

☆危機一発 命の洗濯の大難所 13:32

40↔30M

13:10

広場 13:27

岩峰に見える

白竜峡

下ノ廊下 断崖絶壁

滝 13:23 残雪あり

道標
樽平	21.8K
仙人ダム	8.2K
黒部ダム	8.4K

くろべべっさんざわであい 黒部別山沢出合

黒部別山沢 1060M

12:20〜13:08

スノーブリッジ

岩棚へつり道

もうすぐ別山沢出合だ。「屏風の葵(びょうぶあおい)」と呼ばれ、黒部別山の岩壁の大へつり、岩壁を削り取った道巾60〜80cmのガタガタ道を転倒しないよう行く。

12:15

危 洞窟状

赤ムケの壁

12:10

屹立する断崖の下は渓流まで約30メートル、黒部峡谷の絶景に、歩きながら見とれるなる、瞬時に「あの世行き」の狭い曲りくねった岩棚歩きの道だ。一寸の油断もできない、肝を冷すスリル満点の道を、全身神経になって歩くのみ、キスリングが岩に当って振られないように、腰を落とし、斜めになって遅れないよう頑張るのみ。

12:08

40↔40M

スノーブリッジ

12:05 9人パーティー休憩中を追越す

スノーブリッジをくぐる 12:00

スノーブリッジ

11:53

11:58

右下は30メートルの断崖絶壁で、その岩棚水平道を行く。いよいよ下の廊下の核心部へ入っていく感じだ。雪のトンネルを這いつくばってくぐり抜けるなんて生れて始めて、暑い夏を過ぎても今だに残雪を見るこの下の廊下の奥深さ、V字溝の谷間に驚歎。

断崖絶壁

懸垂谷

雪のトンネル

スノーブリッジをくぐる 11:48〜11:51

3段の小滝

新越沢 (岩小屋沢岳・鳴沢岳より流れてくる)

しんこしざわ 新越沢合流点 11:44 1,130M

A — A 新越滝

キスリングは不適、一歩も油断できなり……

スリルの連続

1,700〜2,000mm

600〜1000

手摺用12ミリ亜鉛メッキワイヤーロープが危険箇所には張られてはいるが……

水平道岩棚歩きの断面

N

0 100 200 300 400 500M

S 1/12500